

臨床研究のススメ

福井大学大学院医学系研究科 博士課程 八幡えり佳



私が研究に興味を持ったのは大学4年生の頃に講座配属で本学の精神科で実験をしたときでした。講座配属が終わった後も、今度は脳神経外科で実験の手伝いをしていました。そして将来は大学院に入って研究をしたいと考えようになりました。平成18年度に本学を卒業して、初期研修医として母校に就職。臨床漬けの毎日でした。初期研修終了後は、市中病院で内科レジデントとして、やはり臨床ばかりの毎日でした。でも、患者さんと接し診療することは大好きでした。でも、いつしか研究には遠のいていきました。平成23年4月に寺澤先生のお導きで救急医を志し、本学救急部に入局。そこで林先生に出会いました。そこで林先生のビジョンで救急部・総合診療部で大学院を作る！と伺い、林先生に**いつか大学院に行きたい！**と言ったら、**今すぐ**

入学しよう！と言われ、早々に平成23年度秋入学で大学院に入学。

5年間臨床を経験して、できれば実験ではなくて日常臨床からデータが得られる臨床研究で学位をとろうと決意。

入学後は研究テーマが見つからず、盲目的にいろんな文献をあさっていました。そこで、林先生と木村先生に入浴事故のテーマはどう？と提案されて、調べた結果、結構穴だったので、飛びつき、研究テーマ決定。現在、プロトコル完成し、準備を進めています。

他の大学と本学の大学院の違いは、大学病院の診療を行いながらも大学院にるところ。学生と医師の二足のわらじは大変ですが、**やはり医学研究の基本は日常診療かヒ**

ントを得るところでしょう。1、2年次は授業がありますが夜間大学院なので、夕方に

行われるため、診療に差支えはありません。もちろん、**専門医対策も同時進行**でい

けます。通常の救急部の勤務がないときに、文献検索、研究の準備をしています。大学なので当然関連病院がいくつかありますので、他の病院からも研究の協力も得られます。

今は、個室の研究室をいただき環境も充実しています。研究室は本とパソコンの

み！それだけで臨床研究は可能です。日常診療でデータをとるので、お金もかからないのが魅力です。



博士号をとって何の意味があるのと言われます。私の夫は理学博士ですが、学位は足の

裏の米粒と言っています。意味がないワケありません！将来は教授か病院長に

なれるかも (笑)。いいえ、自己満足ではいけません。日本の救急医学の歴史はまだ浅く、諸外国に比べて救急医学分野の研究が遅れているのが現状です。将来の日本の救急医学の発展のためにがんばっています。